

The Voice

ザ・ボイス 一声

ザ・ボイス34号

2017年7月 発行

発行者:小田 彰

発行所:宗教法人ライトハウス田園調布チャペル

〒145-0071 東京都大田区田園調布2-46-3

☎ 03-3717-2711

FAX 03-3717-2721

ホームページ <http://www.cfi.gr.jp/>

神の祝福を求めて! ヤベツの祈り



「ヤベツはその兄弟のうちで最も尊ばれた者であった。その母が『わたしは苦しんでこの子を産んだから』と言ってその名をヤベツと名付けたのである。ヤベツはイスラエルの神に呼ばわって言った、『どうかあなたが豊かに私を恵み、わたしの国境を広げ、あなたの手がわたしと共にあって、わたしを災いから免れさせ、苦しみを受けさせられないように』。神は彼の求めるところをゆるされた。」(歴代志上4:9～10 口語訳聖書)

「ヤベツの祈り」が米国のキリスト教界で話題となったのは20年程前であった。まさにアメリカンドリーム達成の祈りかのように脚光を浴びた。その数年後、日本でも四、五冊の単行本が出版された。しかし、旧約聖書の歴代志上4:9～10にわずか2節だけ登場する、逆境を感謝に変えた無名の人物の記録であって、輝かしい業績を上げた信仰の人とはどうしても思えない。最後の行に「神は彼の願ったことをかなえられた。」と新改訳聖書は訳しているが、何か神の心を動かす尊い信仰の祈りがあつたに違いない。

母は「苦しみの中で産んだ」と言って「ヤベツ」(悲しむ、苦しむ)と名付けた。単に難産だったと言うのではなく、一族のなかの辱しめや、夫の死、あるいは自らの病など、筆舌に尽くし得ない悲しみの中で出産しなければならなかったのだろう。あるいはまた、ヤベツ自身も障害を持って生まれてきたのかも知れない。もし普通の子供であれば、いじけて育つこともあろうが、聖書の記録は「彼は神に祈った。」としか書いていない。すなわち自分のハンディを見ず、母親に責任を転嫁せず、何でも神に祈ったと言うのである。ここに決してヒーローではない人物から来る慰めを見出さずのである。ヤベツの祈りには五つの要素がある。

①「わたしを祝福してください。」ヘブライ思想では富、健康長寿、子孫の繁栄を祝福と言っている。家庭的にも経済的にも肉体的にも苦しみの中に育ったヤベツは、誰にも依存しないでひたすら神に求めた。そこに奇跡の鍵があつた。

②「地境(領土)を広げて下さい。」は、いかにも世俗的な欲望のように聞こえるが、人間関係における「中垣を

取り除く」祈りと理解すると、彼の人となりうかがえる。幼い頃から差別され蔑まれ、苛めを受けた事があつたかも知れない。親族の中で母も傷ついていたかも知れない。ヤベツの祈りは許しであり、和解であり、真の愛であった。その結果、多くの友を得、兄弟達の中で最も尊敬される人となったのである。

③「主のみ手が共にありますように。」彼は神の守りなくしては生きられないことをよく知っていたから、言葉においても、行為においても、時々刻々神のみこころに添うことを切望していたと考えられる。日々神のみ手を握りしめた生活であつたであろう。

④「災いを遠ざけて。」この「災い」はサタンの攻撃で

ある。彼は心を乱す闇の力を一番恐れていた。なんと純粋な信仰であろうか。

⑤「苦しみを遠ざけて下さい。」

幼い頃から十分に苦しみを味わつたヤベツはこれ以上の苦しみに合わせないで下さいと素直に願つた。ヤベツの祈りが「悲しみの中の祝福」と言われる由縁だ。ここで神は地位も名誉も権力も魅力もないような一人の貧しい無名の人の祈りの声に耳を傾けてくださるお方であることを発見する。私には、ヤベツの祈りに流れる十字架の血潮が感じられるのだが…。

田園調布チャペル牧師 小田 彰

「メサイアに想う」

「光は闇の中に輝いている」ヨハネ1:5 心の暗闇、死そして永遠の滅亡から救われる復活の希望。

5月3日の紀尾井ホールでのメサイアコンサートは小田先生のレクチャーと字幕で、いつもにも増して信仰に立って歌える喜びを噛みしめました。

振り返れば30年前バンコクで回心、受洗して、子供達を連れ慌ただしく帰国した折、サントリーホールで聴いたコンサートもメサイアでした。それは、神様の導きと恵みがなければ一歩も歩めない日々の大きな慰めとなりました。また、5月19日天に召された阿部和子姉妹が'99年5月5日小田先生、家安兄弟にお願いして、夫欣二兄弟の送別コンサートを企画。山手教会を、お借りして開催されたコンサートも(世界の恵まれない子供達のために)と題したメサイアコンサートでした。かつて欣二兄弟が勤務していた朝日



新聞で招待者を募り抽選。教会員総出でお手伝いしてのチャリティコンサートでした。

キリストが甦えられたように私たちも復活するという希望のメッセージ。毎回アーメンコーラスで涙が溢れます。聖歌も歌えなかった私が、メサイアを歌い続け

舞台上に立たせていただけたのは、ただ神様の恵みと憐れみです。合唱団の皆様と歌う喜びをどうか沢山の方々に味わって欲しいのです。

メサイアコンサートも10年となりました。ヘンデルが続けた慈善演奏会のスピリットも受け継ぎ大震災復興支援コンサートとしての使命も果たしながら末永く続けていけますよう祈っています。そして何より、多くの方が救いに導かれますよう心からお祈り致します。

佐川英子(田園調布チャペル)



「小さな一歩、また一歩」



ホームチャペル茅ヶ崎から6名の入会式

7月2日(日)ホームチャペル茅ヶ崎から6名が田園調布チャペルに入会しました。ホームチャペル茅ヶ崎は本年4月に開設11周年を迎えましたが、主の恩寵という他ありません。思えば10年前、某教会に籍がある息子一家が(愛犬ケイも加わって)わが家で夕礼拝を持ちました。一組の友人夫妻も加わってホームチャペルがスタートしたのです。それは十数名に成長し現在に至っています。礼拝のメッセージは小田彰牧師のCFI礼拝説教CDを用いてきました。2016年秋、武道館で開かれたフランクリン・グラハム大会に私達夫婦共に参加しました。求道者に語られた「悔い改めと回心」の説教が、私の心の深い所に届きました。

集会は続けて来ましたが、信仰の成長、献金の恵み、聖餐式の大切さなど大事な点が欠けていたのではないかと示されました。

そこで田園調布チャペルと繋がってこれらの問題を解決したいと小田牧師に相談しました。

この決断に進もうと決心した途端に、夫に次々と病が襲って来ました。

私やメンバーにとっても、遠くまで通うのは困難だし、今さら変える必要はないかも、と心が乱れました。『しかしあなたは苦しみの中にいるかも知れないが、信じ固く立ち、打ち倒されることを拒否する勇気を持つならば決して倒れることはない。』(「荒野の泉より」という言葉に励まされました。それ以来半年、主は最善をなし、整えて下さいました。田園調布チャペルの一部として、小さな集会在また一歩未来に向けて出発したのです。私が通ってきた道、それは私が歩いて来たのではなく、神様が通らせて下さったのだと思います。これからも福音の証し者として、小さき群れとして、主に望みをおいて歩んで参ります。「あなた方のうちに働きかけてその願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとするところである。」(ピリピ2:13)

小川鐵雄 八重子

CFI関西の集い 2017年3月30日



新阪急ホテル 薔薇の間にて

成長させてくださる神 鷓戸西 努(宮崎)

6月7日は小田先生がメサイア公演で寄せられた募金を持参する際にご一緒させていただきました。

熊本の被災地は報道で話題になることも多くはなくなりました。復興には忍耐と時間を要するもので、世の中が忘れても祈り覚え続けることの大切さを教えられました。

この2年、ライトハウス、アカデミー、メサイア公演と三つの小田先生の活動の領域に参加させていただきました。これらの学びや交流の機会を通じて自分の狭い視点をいく分か拡げることが出来ました。さて地元宮崎の伝道を再開し数ヶ月になり幾つかの小グループを牧会しています。

あるグループは家族という単位であり、あるグループは精神疾患の緩和と楽しみというグループもあります。中心となっているのは、クリスチャンの姉妹のグループであります。コミュニティを育て、仕えていくのが私にとってのミニストリーです。

「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり」(マタイ20:28)

コミュニティとは生きた人間の集まりであり、生き物そのものであるのです。

私の思いや計画のとおりにはいかぬものです。ある時には想像を超えた祝福があり、またあるときには想像を超えた反抗があるもので、正論や常識からすればありえない方向に人々の心は動くものです。



九州キリスト災害支援センターで、筆者左から二人目

ですから、仕える僕の精神態度を維持しないといけません。人間とはこちらが謙遜にへりくだって時間や労力を使って降りていきやっとなら「対等にかかわってくれた」と伝わる存在です。

でも、ただ言うことを聞いているだけでいいのか? とも思われるでしょう。現実の

羊様方に仕えながらも「主が示される幻を見据える信仰」が牧会の道です…私ではなく、神が。

「私は植え、アポロは水を注いだ。しかし成長させて下さるのは神である。」Iコリント3:6

メリークリスマスイン青山 2017



12月9日(土) 18:00~
青学会館グローリーチャペル

我らが救い主イエスキリスト様のお誕生を音楽と賛美で一緒にお祝いしましょう。

○ライトハウス・田園調布チャペル 礼拝への招き

礼拝は毎週日曜日11時からです。神様を見上げ、共に静思の時を持ちませんか? お待ちしております。尚、インターネットによる動画メッセージを提供しております。CDも発行されております。お問い合わせください。

ホームページは、<http://www.cfi.gr.jp/>

○編集部から

2017年もすでに下半期に入りました。世界そして日本の政治、経済、社会の変化のスピードがますます加速しているように感じます。「しかし、われわれの神の言葉はどこしえに変わることはない。」(イザヤ40:8)このザ・ボイス34号を通して一人でも多くの方々に、クリスチャンの信仰の喜びを伝えることができますように。記事や写真を提供して下さった兄弟らに心から感謝いたします。(ザ・ボイス編集部)

